

---

# 若年就業問題の2つの焦点と 職業能力開発

---

労働政策研究・研修機構

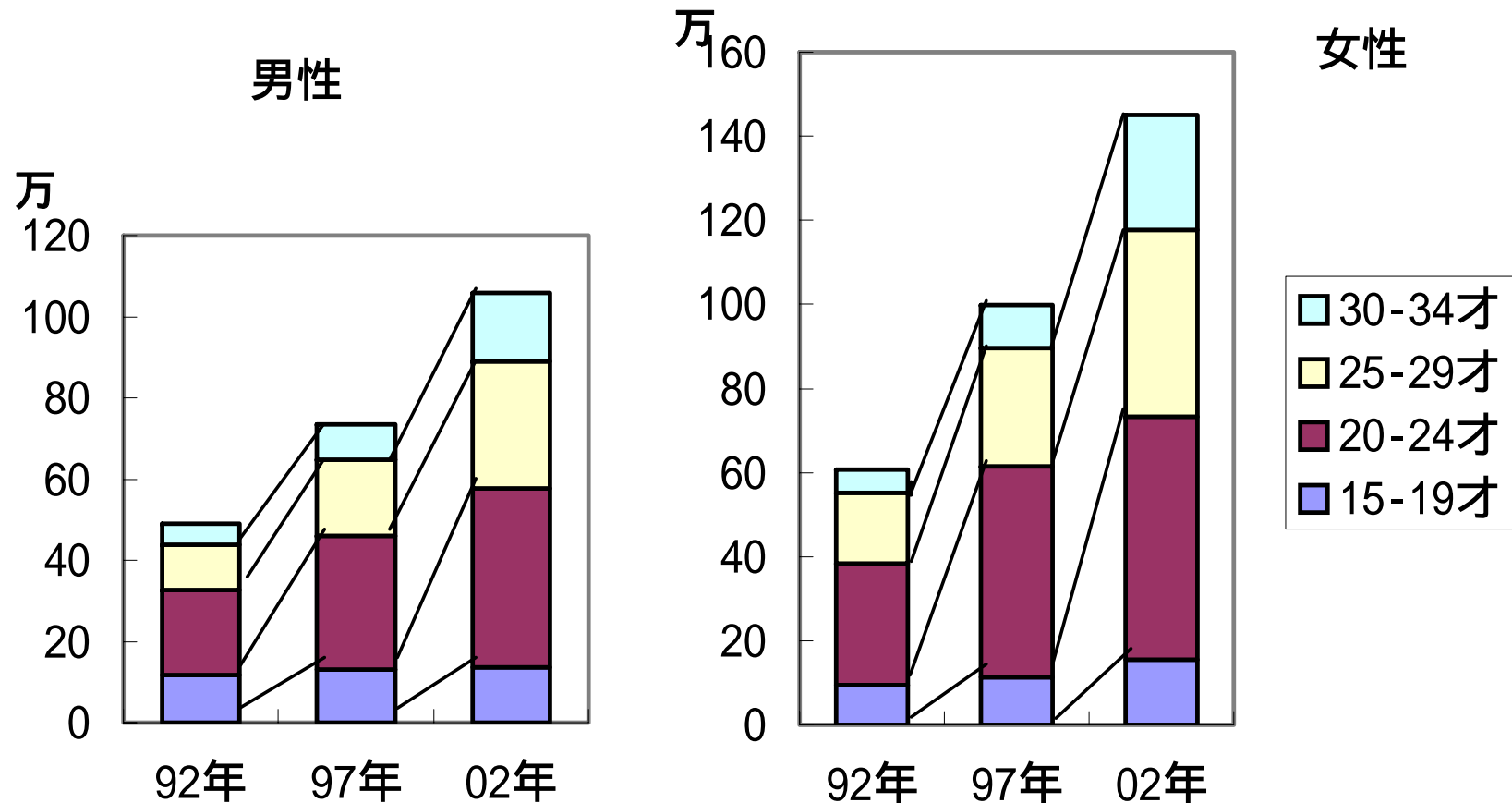
小杉礼子

---

# 若者就業問題の2つの焦点

- 生まれるタイミングを選べないことからくる不運  
= 団塊ジュニア世代を中心とした、就職氷河期  
卒業者・年長フリーター
  - 親(経済力・文化格差)を選べないことからくる不運  
= 本人の学歴と親の経済力は相関し、学歴と  
就業形態・収入の相関は拡大
-

# フリーターの性別・年齢別構成の推移



出所：JILPT(2005)「若者就業支援の現状と課題」(総務省「就業構造基本調査」特別集計)

# 世代問題の側面

- 人数の多い団塊ジュニア世代の学卒期に新規学卒採用が大幅に縮小
- 内部労働市場が発達した日本型雇用の持続
- 拡大する正社員と非正社員間の雇用の質の差

非正社員の職業能力形成機会 + 職業能力評価の仕組み  
+ 相談(個人の思いを汲み取りつつ方向付け)

正社員への移行、非正社員のままでのキャリア形成  
(経済的自立・家族形成・納税ができる生活)

# 若年非正社員の能力開発促進のハードル

- 企業主導での能力開発機会は正社員に比べて限定的
- 個人主導では、能力開発機会が少ない、効果的能力開発プログラムがない、わからない、コストが高く低賃金の非正社員に利用しにくい
- 内部労働市場の発達した企業では途中参入が困難、能力開発の結果の評価がされにくい
- 能力開発への動機付け不足 = キャリア設計ができない、努力への評価に不安

- ・ 内部登用を促進して、企業主導での能力開発
- ・ 個人主導でもOJTを組み合わせた実践な能力開発
- ・ 中途採用が活発な、中小企業/成長企業に焦点づけた分野で
  - ・ 能力評価基準の設定と公証のしくみ=業界団体の活用
  - ・ 継続的な相談、情報提供による個人サポート

# フリーターから正社員への離脱

単位；%

	男性			女性		
	2001年	2006年		2001年	2006年	
	正社員に なろうと した	正社員に なろうとし た	(うち、正 社員に なった)	正社員に なろうとし た	正社員に なろうとし た	(うち、正 社員に なった)
計	74	51	59	53	36	54
18-19歳	38	17	8	30	15	8
20-24歳	64	46	51	41	34	45
25-29歳	86	67	69	63	45	64
高卒以下	75	46	57	51	29	38
高卒超	77	58	60	58	43	64

# フリーターから正社員になろうとした際に悩んだこと

## ■ 学歴・資格・スキルがない

学歴が低いと、資格などを取得していてもやってくれない。(男性22歳)  
まともに学校に出ればこんな苦勞をしなくてもすんだのに...と思った事がある。  
(男性27歳)

採用時期が限定されていて申込みづらい。実際業務に必要なスキルや経歴を求めている理由が理解できない。正社員の門はかなり狭い。(女性28歳)

## ■ 正社員は自由や時間が拘束されるのではないか

アルバイトの時よりも時間が束縛される。責任がかかる。(男性22歳)  
正社員になった方が安定はするだろうけど、かなり労働時間が長いこと(男性26歳)

## ■ 正社員の仕事をこなせるか・何が向いているかわからない

正社員にはなりたいが、何をしたいのか分からなかった。自分には何ができるか分からなかった。(男性27歳)

# 年長フリーターの将来の具体的な希望

- 正社員

なるべく早く今のアルバイトで正社員になる(26歳男性) / 今の職場でスキルを身につけ、別の会社で正社員になる(26歳男性)。 / 自分の1年後、3年後、5年後、10年後...が想像できません。このまま年老いていくのかと思うと、情けなくて悔しくて。今のアルバイト先で正社員になれたらいいなあと思います(27歳女性)。

- 芸術・芸能・趣味を生かした生活など

ミュージシャン(25歳男性) / 1年以内にレコード会社と契約(26歳男性) / 日本語教師をしながら、子供たちに海外交流をひろめていく仕事(25歳女性) / サッカーの教育者、指導者(アドバイザー)になりたい。(29歳男性)

- 自営・開業など

3年後に店をもちたい。レンタルビデオ(28歳男性) / オンラインショップを開業し、軌道に乗せ安定した売上を確保させる(29歳男性) / 家の仕事を継ぐ(25歳男性) / 一年以内に、めざす職のアシスタントになる。三年以内にプロになる(25歳女性)。

- 資格試験、公務員試験

国家公務員を目指している(25歳男性) / 資格をとるために勉強中なので、現在はアルバイトですが、資格がとれば、それを生かし正社員になりたい(28歳女性)



# 格差問題の側面

就業形態による収入差大

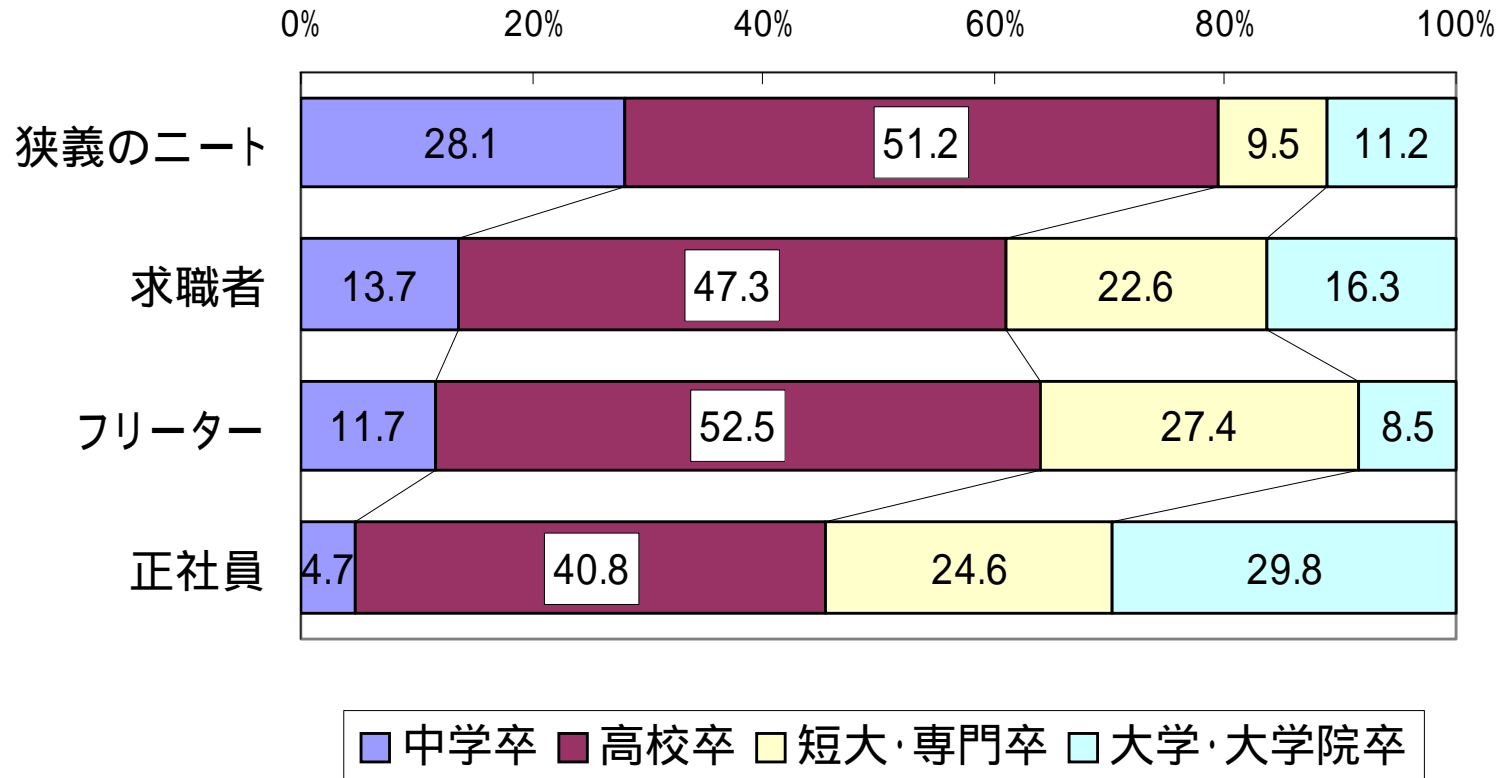
学歴差(とりわけ中途退学)

親の家計・階層・文化的格差

(貧困の再生産)

- ・親の支援を当てにしなくともよい能力開発の仕組み = 「働きながら」「目標がわかりやすい」「将来展望」= 訓練生雇用型
- ・中退防止・アウトリーチによる支援=学校と就業支援機関の連携  
(学内・学外の支援の専門家によるネットワーク)
- ・早期介入 = 学校在学中に幅広いキャリア展望、視野の拡大

# フリーター・ニート等の学歴構成(15 34歳)

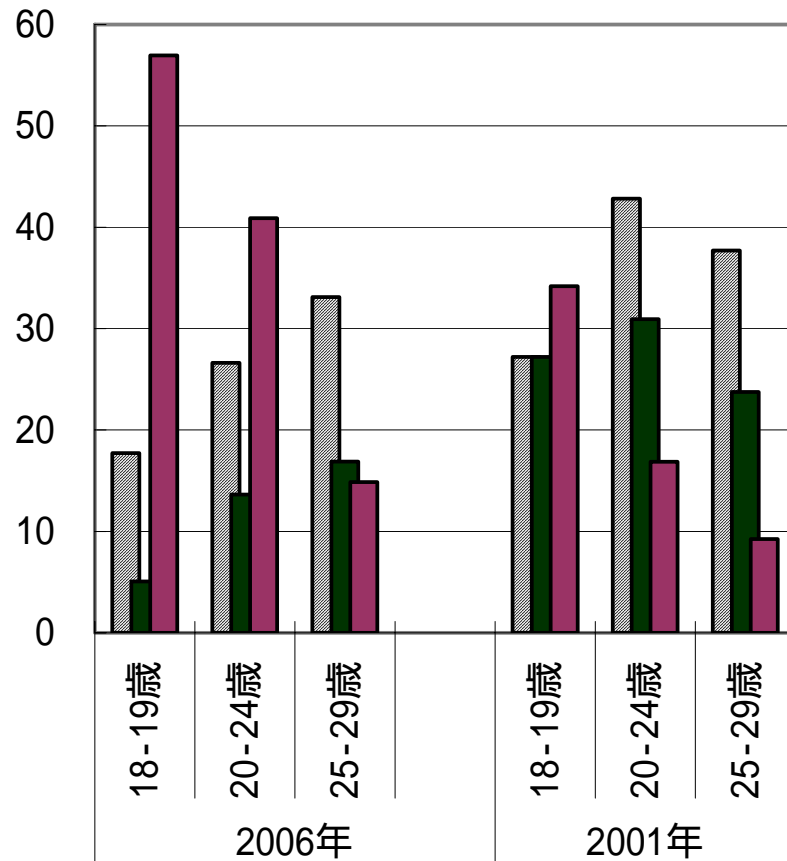


資料出所: JILPT (2005) 「若者就業支援の現状と課題」(総務省「就業構造基本調査」(2002)特別集計)

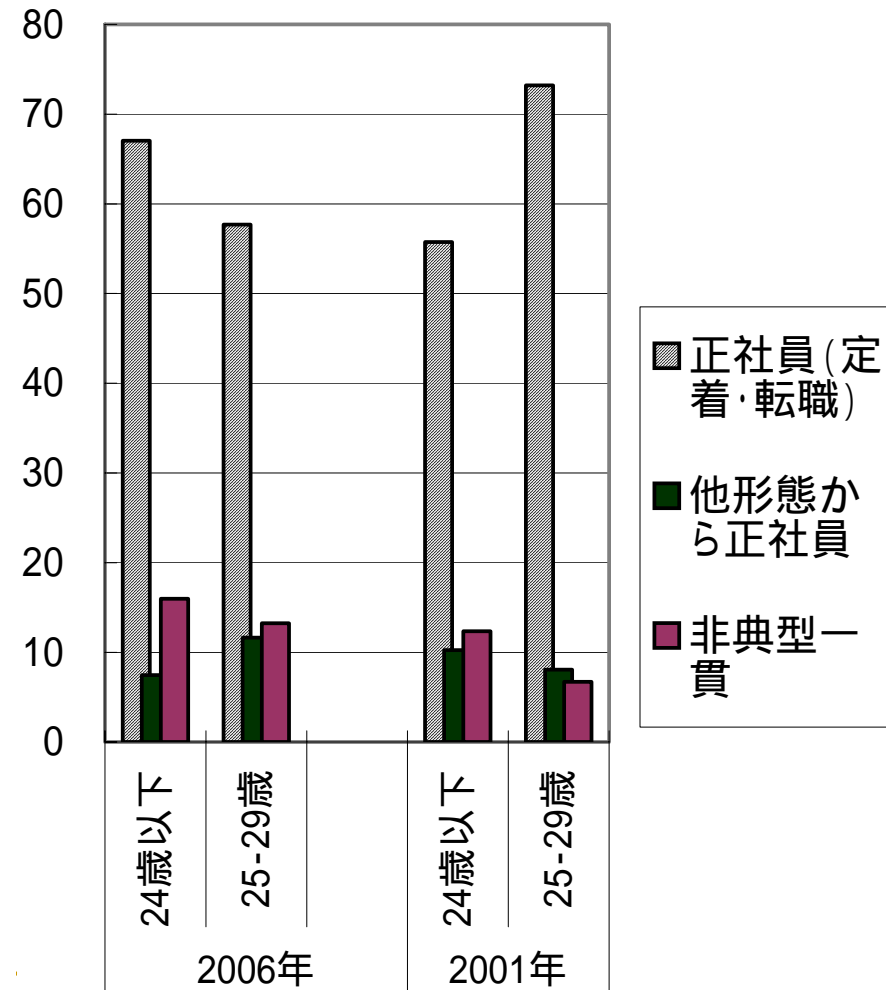
注: フリーターは、年齢は15-34歳、在学しておらず、女性については配偶者のいない者に限定し、有業者については勤め先における呼称がパートまたはアルバイトである雇用者、現在無業である者については家事も通学もしておらず「パート・アルバイト・契約社員」の仕事希望する者。狭義のニートは、年齢は15-34歳、ふだん無業で求職活動をしていない者で、在学も通学もしておらず、かつ、結婚しておらず、家事もしていない者。

# 大都市の若者の職業キャリア (在学中を除く)

男性高卒



男性大卒



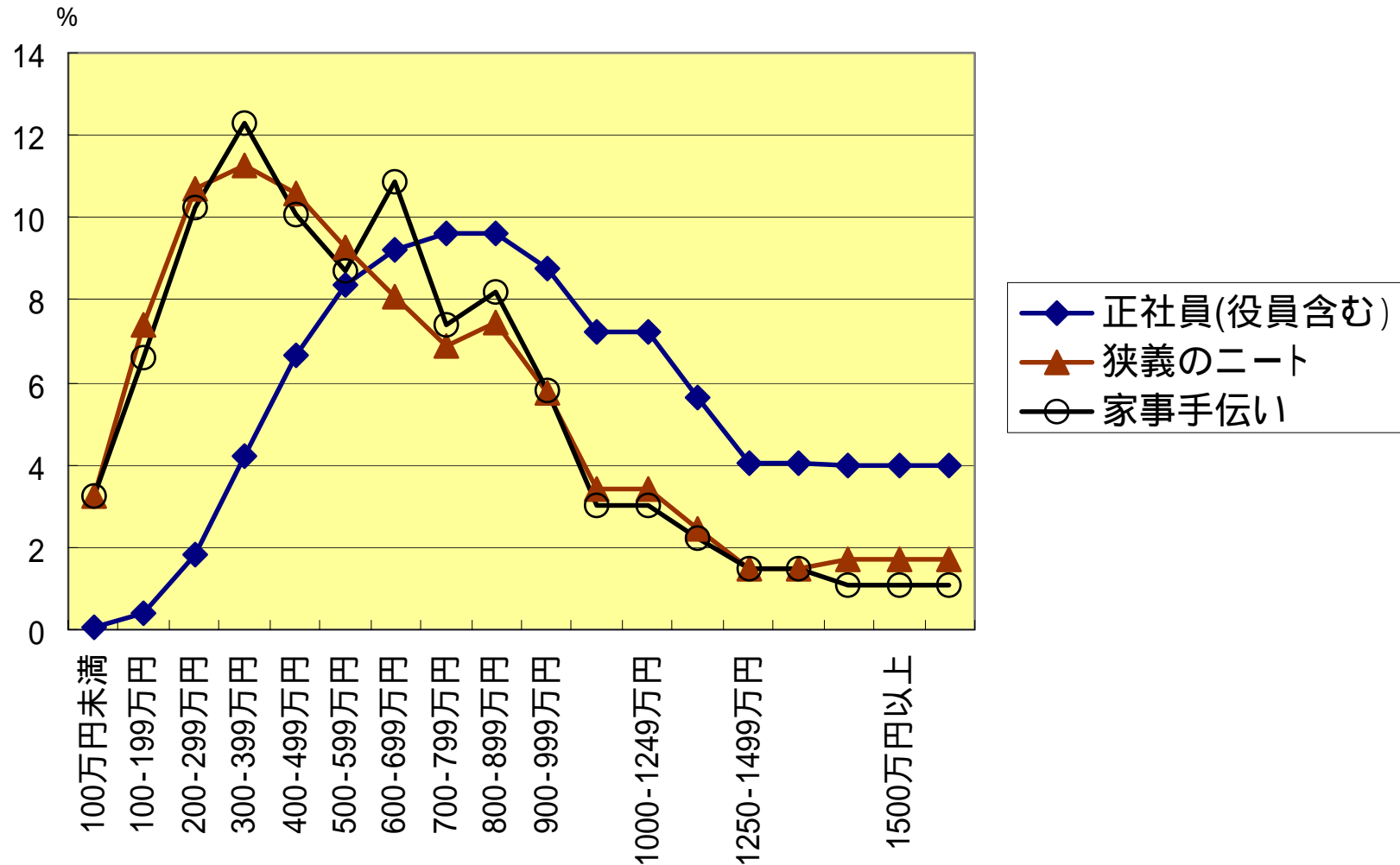
出所; JILPT(2006)『大都市の若者の就業行動と移行過程』

# 本人の学歴と親の学歴、家計状況

	対象数	父学歴(大学等卒業率、%)	母学歴(大学等卒業率、%)	経済的豊かさ*1
高卒18-19歳	154	39.0	22.7	-0.10
高卒20-24歳	265	30.6	16.2	-0.08
高卒25-29歳	244	23.0	13.1	-0.29
高校中退等18-19歳	54	18.5	14.8	-0.19
高校中退等20-24歳	58	25.9	17.2	-0.17
高校中退等25-29歳	52	15.4	9.6	-0.35
短大専卒24歳以下	251	42.2	29.9	0.12
短大専卒25-29歳	325	40.0	27.7	0.13
大卒24歳以下	166	69.9	47.0	0.30
大卒25-29歳	325	56.3	38.8	0.32
高等教育中退24歳以下	56	48.2	35.7	0.14
高等教育中退25-29歳	46	43.5	26.1	0.26

注\*1 「豊かである」=2点、「やや豊かである」=1点、「分からない」=0点、「あまり豊かでない」=-1点、「豊かでない」=-2点としたときの平均値。

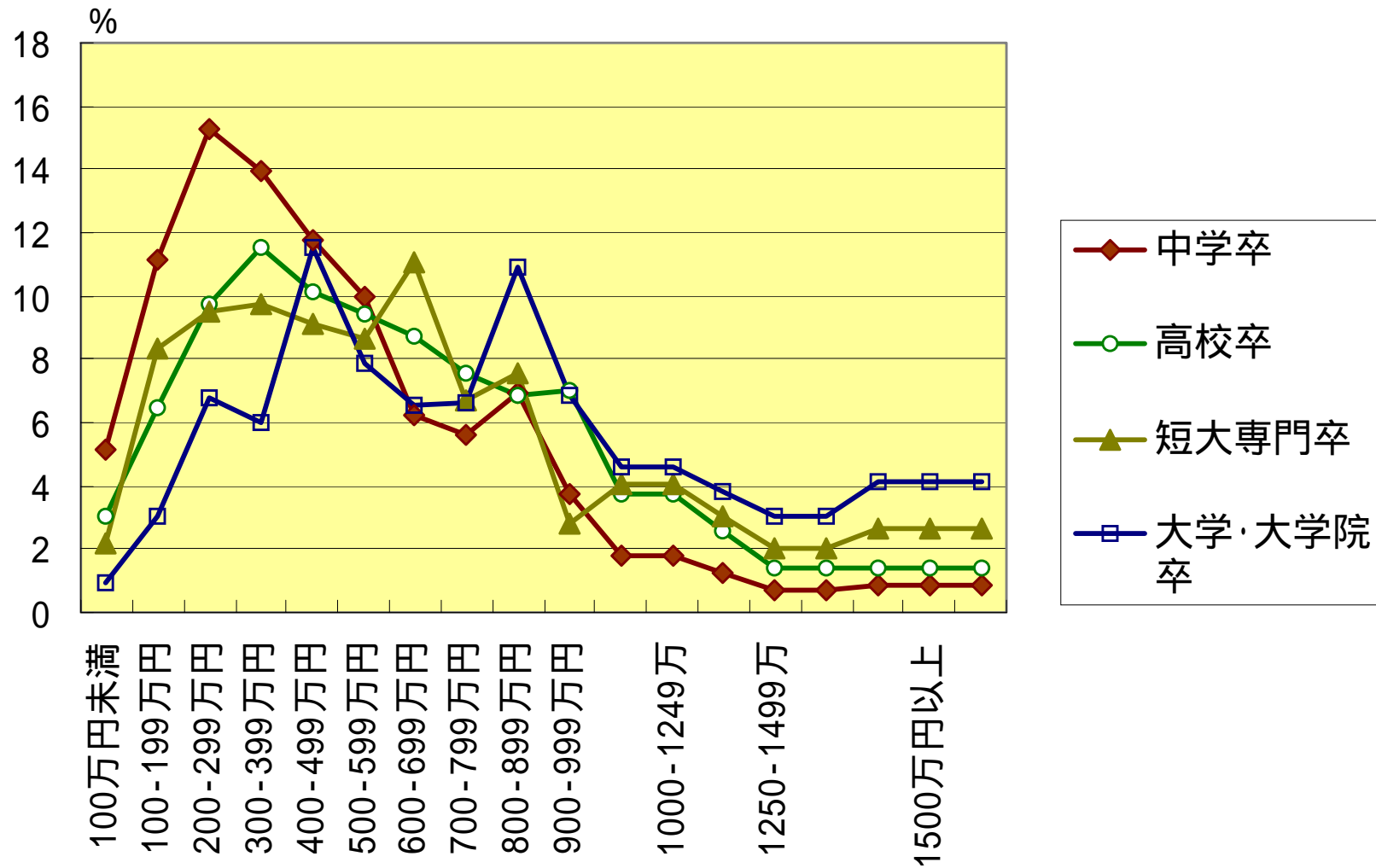
# 同居の子ども就業状態別世帯年収の分布



注)1000円以上は区分が異なったので100万円単位に配分した。

出所:総務省「就業構造基本調査」(JILPT(2005))「若者就業支援の現状と課題」報告書より)

# ニート状態の子がいる世帯年収分布(子の学歴別)



注) 1000万円以上は区分が異なったので、100万単位に配分した。